

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1979号 2009年07月13日(月)

## 《 A big and big loss for LDP 》

「最近の自民党を一度はパニッシュする投票行動をしたい」「こうなったら民主党に一度政権を取らせてもいいじゃないか」という日本全体にみなぎる空気を如実に反映した東京都議選の結果だった。「自民・公明」という国レベルの連立与党、そして都議会での連立与党は最低死守ラインとしていた勝敗ラインの過半数「64議席」を確保できず、自民党38、公明党23の「61」(改選前は合計70)に終わった。かつ自民党は、都議会第一党の地位を民主党(54議席獲得、「系」を合わせると57)に譲った。選挙前は自民が48、民主が34だった。連立与党が60台の議席を確保したのも、公明党が23の公認全員の議席を確保したからだ。

都議選は地元で事業をしている人、もともと東京に住んでいた人にとっては「党と議員を選ぶ選挙」だったろうが、地元との繋がりはあまりなく、東京に本社を置く企業、日本の首都で仕事をしてきた方が便利と考える多くの地元とは弱縁の都民にとって、もともと「議員を選ぶ選挙ではなく、党を選ぶ選挙」と言える。「知っている候補者は実は少ない」中での選択となる選挙である。つまり特殊な地方選挙なのだ。今回投票した有権者全体の54.49%(今回投票率、前回は43.99%)の人の中には、「最近の国政への私の審判」と思って投票した人が多いはずだ。「国政と都政は別」を建前に今回の選挙も候補者を立てた生活者ネット(全国的組織は持たず)の議席数は前回の「4」から「2」に減少した。これは、同ネットの主張浸透度の弱さもあるだろうが、都民の多くが「国政選挙の代理戦争」として投票した結果だと考えられる。共産党の議席減(13→8)もそういう図式で考えられる。

その国政審判選挙の側面が強い都議選で自民党が惨敗したと言うことは、大きな変化がなければ次の、そして間近に迫った衆議院の総選挙で何が起きるかを強く予感させる。それは自民・公明の連立与党の敗北と、それに伴う政権交代である。その追い詰められた状況をなんとか脱却しようとして、自民党の中では既に12日の夜から「総裁選の前倒し」、つまり「麻生降ろし」の動きが活発化していると報じられる。そこで次の自民党総裁の候補に挙がっているのは中川秀直、舛添要一、鳩山邦夫、与謝野薫、谷垣貞一、町村信孝、小池百合子、石原伸晃、武部勤、それに今までの言動を考慮すれば石破茂などの各氏だ。つまり、絞り切れていないということだ。

これに対して、読売、サンケイ両紙の見立てによれば、「麻生首相は14日には解散・総選挙に打って出る」構えのようだ。一種の「やぶれかぶれ選挙」になる。「解散は私の手で」

と言い続けた麻生首相だから、「最後はぶれないでいこう」という意思を通すことになる。しかし解散には「閣僚の署名」が必要で、今の状況ではそれが集まらない可能性もあるという。としたら麻生首相はどう出るのか。いずれにせよ、日本の政局は13日から大荒れになるということだ。朝日などは今朝の朝刊では、「総選挙先送り論強まる」と間近な選挙は可能性が低いというニュアンスの記事になっている。どれが正しいのかはまだ分からない。

しかし分かっているのは、ほんの短い間を除けば戦後一貫して政府を構成してきた自民党中心の政治が、まだ政権担当能力を立証していない若い民主党中心に変わると言うことだ。むろん「一瞬先は闇」と言われる政治の世界の事だから、これから総選挙に向けた短い期間にも何が起きるのか不明だ。しかし、最初に書いた国民の間にある二つの感情、つまり

「最近の自民党を一度はパニッシュする投票行動をしたい」

「こうなったら民主党に一度政権を取らせてもいいじゃないか」

は国民的に強いと考えられる。この二つの感情の中でも強いのは前者だろう。国民の民主党に対する疑念は強い。しかし「選択しろ」と言われれば今の野党である民主党、その他の政党を選ぶということだろう。自民党に現時点で残っている希望としては、「あまり明確な勝利を民主党など野党に与えることは危ないかも知れない」という空気が国民の間に出てくる可能性だ。しかしそれでは自民党をパニッシュしたいという今の国民の気持ちが収まらない可能性がある。

### 《 ending the adjustment process ? 》

都議選が市場にもたらす影響は、「そうは言っても地方選挙に過ぎない」という見方も出来るから難しいが、全般としては株安・円安かもしれない。市場は「総選挙を睨んだ動き」に急速に移行するだろう。

「当面」という図式で今週の市場を考えると、3月から6月まで続いた株高・円安相場の修正として6月末から続いていた調整が一巡したのか、まだ途上にあるのかの判断を迫られる週となろう。株で見るとニューヨークは8000割れを、日本の株価は9000割れを目前にしており、またドル・円は一時91円台を付けるなど、100円前後まで行った円安局面からは大きな調整を経た形となっている。

株式市場からは短期的な強気論が消え、一方の為替市場では円売り・高金利他通貨買いをいったん諦めて円を買い戻す動きが顕著なところまで進み、また先週の後半には株安と円高が加速してみられるという一種の「クライマックス」の動きも見られた。それ故に、「調整は一段落した」と考えることも出来る。相場観の偏りが見られるときには相場はしばしばその逆に動くものだ。

しかし重要なことは、調整局面を経た、終えたにしても、株高地合いと円安地合いが直ちに、そして3月から6月末までのようにパワフルに来ることはないだろう、ということだ。世界の景気への楽観論には、アメリカの雇用情勢など明確な悲観材料が出てきている。それは6月の雇用統計に見る非農業部門の就業者数の数を見れば明らかである。雇用が遅行指

標であることを念頭に置いて、雇用情勢は厳しい。ということは、調整が終了に近づいているにしても、その後の動きは鈍いということだ。日本でもアメリカでも消費者の消費意欲は弱い。ということは、経済の回復パワーは先進国を中心に弱い。

イタリアで先週開かれたラクイラ・サミットは、私が知る限り市場の見地からすると過去もっとも見るべきものがないサミットでした。もっとも「サミット」と言っても、伝統的なG7やG8の会合を指すのか、それに+5を加えた会合を指すのか、それとももっと拡大して行われた会合を指すのか難しい。

一言で「サミット」と言っても「物理的に複層的な会合が行われて、合意も複雑な、本音と建て前の違う」会合になってしまったということです。「少ない首脳による忌憚のない意見交換の場」という第一次オイルショック後の当初の狙いは忘れられたとも言える。

G8サミットで示された声明ベースの世界経済認識は、「株式市場の回復など安定化の兆しがある」と、日々市場の動きを見ている人間には「？」と首を傾げざるを得ないものだった。なぜなら直近では危機感がむしろ高まっているからだ。その一方では声明は、「経済状況は引き続き不確実で、経済と金融の安定性に大きなリスクが残る」と、今後あり得る不確実性にはリスクヘッジを施した。要するに何を言っているのか分からない、というサミットだった。

この段階でマーケットはサミットに関心を完全に失ったと言える。新たな景気刺激策が打ち出されるでもなく、一番注目された胡錦濤・中国国家首席は新疆ウイグル自治区での騒乱・暴動対策でとっとと帰ってしまった。その後に出てきたドーハ・ラウンドの再開での先進国と途上国の合意、温暖化対策を巡る途上国と先進国の対立、核廃絶を巡るオバマ大統領の提案などは、市場の関心外の話だった。

明らかになったのは、経済や市場に影響を与えてきた存在としてのサミットの著しい地位低下という事実だ。なにがそうさせたかという、多極化した世界経済が意思統一を極めて難しいものになっているという現実である。

よく金融危機後の世界は、アメリカも唯一無二の超大国の地位を降りざるを得なくなったので「世界は多極化した」と言われる。「多極化」というと各極は同じような力を持った極のような印象を受ける。しかし抱えている人口も国土も、武器も、経済規模も違う各国が同じような大きさ、重さの極だというようなことはあり得ない。現実にあるのは「不揃いな多極化」であって、実際には中味のある合意をしようとしたら非常に難しい。市場はそれを知っているので急速にサミットに対する関心を失っている、というのが実情だろう。

今週の主な予定は以下の通り。

7月13日(月)

5月鉱工業生産(確報)・設備稼働率

6月消費動向調査

7月14日(火)

日銀政策決定会合(～15日、展望レポート中間報告)

	6月首都圏マンション販売
	米6月生産者物価
	米6月小売売上高
	米5月企業在庫
	EU7月ZEW景況感調査
7月15日(水)	日銀政策決定会合(2日目)
	白川日銀総裁記者会見
	米6月消費者物価
	米7月NY連銀製造業景気指数
	米6月鉱工業生産・設備稼働率
	米FOMC議事録公表
	米FRBが米経済見通しを発表する予定
7月16日(木)	5月第3次産業活動指数
	7月日銀経済月報
	米7月NAHB住宅市場指数
	米7月フィラデルフィア連銀製造業景況指数
	中国4~6月GDP
	中国6月生産者物価 ・中国6月小売売上高
	中国6月鉱工業生産 ・中国6月固定資産投資
	ポールソン前米財務長官がバンカメによるメリル買収 問題で議会証言(米下院監視・政府改革委員会)
7月17日(金)	5月景気動向指数(改定値)
	米6月住宅着工件数
	米6月建設許可件数

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。珍しく「雨の記憶」のない週末でした。土曜日も天気はもったし。まあ沖縄から九州南部と梅雨は明けてきている。九州の北部や四国の北部に雨が十分に降ったかどうか分かりませんが、季節は夏に向かっていくということです。土曜日は富士山麓に居たのですが、「うーん、ここの空気を原宿に持っていったら売れるな」なんて考えていました。

ところでこの週末はもう一つ、「家の無線LANの最新化計画」を実施しました。今まであまり気にしていなかったのですが、無線LANも最初出たレベルから日々進化しているようで、確かに更新したら家のLANが速くなってサクサクと動くようになった。

きっかけは、ブルーレイDVDを追加するなど家のテレビ関係のネットワークを再構築しようとしたこと。NHKオンデマンドをPCではなく、テレビの大画面で見るためには「ネットワ

ーク TV」の設定などが必要になる。それをやっていたのです。「ネットワーク TV」には、最新のインターネット・ネットワーク環境が必要です。しかし我が家の LAN 環境は光フレッツが出た直後のものでもう時代遅れだった（そうです）。そこで、家のインターネット・ネットワークの更新をしたのです。日曜日でしたが担当の方が来てくれて。

何を変えたかという、無線 LAN の中心的マシンを最新のものにしました。私は知らなかったのですが、これまでのかなり古いやつは限られた電波領域というか方式しか拾えていなかった。いや、出せていなかった。しかもネットワークキーが 5 桁だったので、いろいろな端末（ipod とかソニーのネットワーク walkman など）にうまく接続できなかった。今は最低 8 桁です。不便だったので、それを含めて家のネットワーク環境を一挙に最新にした。近くの AVIC の方に来て頂いて。なんだか知りませんが、それまでの「A」しか拾えないシステムから、最新の「D」まで拾える方式になった。

その結果、非常にスッキリしました。マンション内の他の部屋は無線 LAN の電波が今までは弱かったので PLC を使っていたのですが、今回の更新で電波が強くなったのでしょうか。家のどこにいても 5 4 で無線 LAN が繋がる環境になった。これは便利です。LAN ケーブルなど線を何本も取り外しが出来た。部屋も少し綺麗になった。

無線 LAN も進化している。ネットがサクサク動くのは大賛成です。では皆様には良い一週間を。

*《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》*